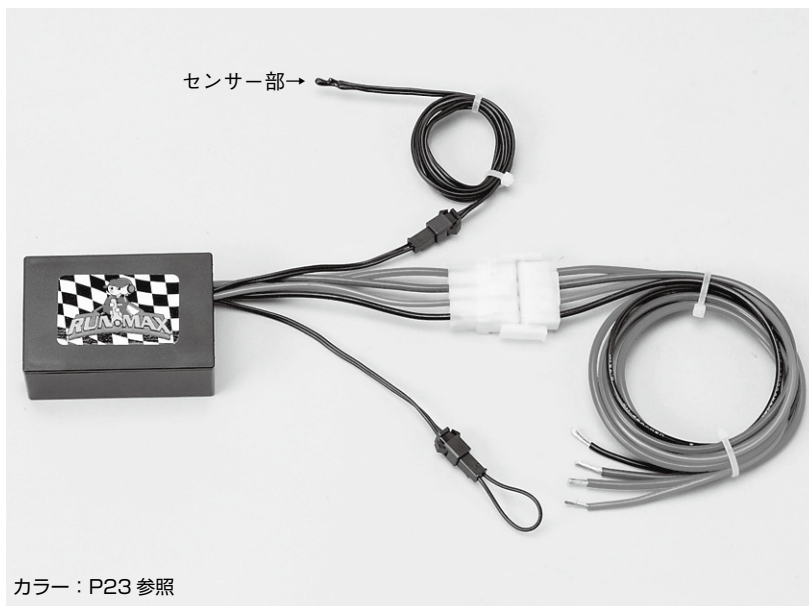


クーリングシステム関連パーツ



●ラン・マックス 電動ファンコントロールキット



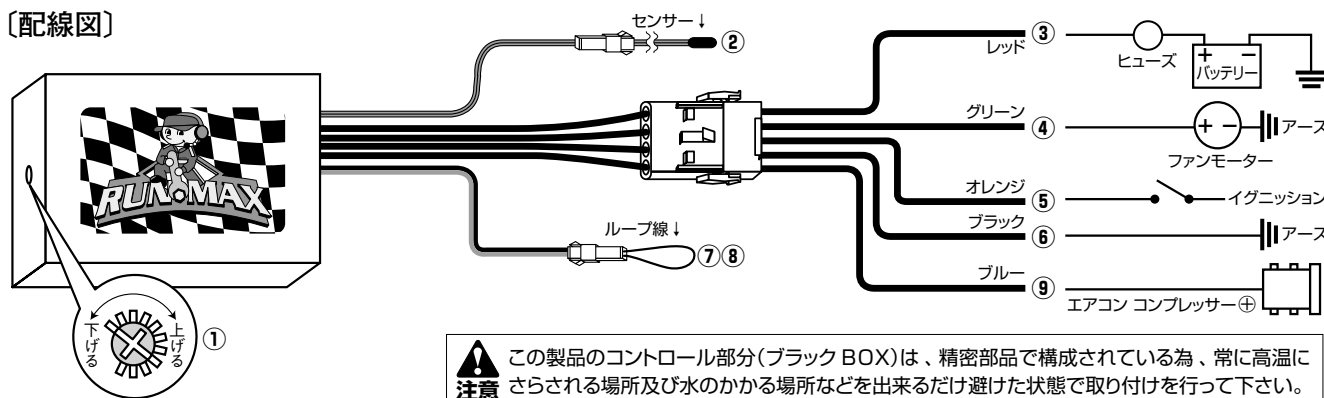
カラー：P23 参照

温度センサー先端部は約3mmという小ささで開発ができています。温度調整範囲も今までにない **60～120℃**と広がっています。センサー部分はラジエターホースに直接ロックバンドなどで止めるか、ラジエターなどのフィンにシリコン系の液体パッキン(P341～)で固定するか、温度感知出来る所で有れば貼り付けするか、作業性は抜群です。

ラジエターファンスイッチだけでなくその他ATF、パワーステ、フューエル、デフ、ミッション、エンジンオイルクーラー用などのファンスイッチとしても幅広く利用出来ます。

品番	リレー容量	エアコンとの連動性	価格
1403N	12V・20/40A(内蔵)	無し	¥9,800
1403S	12V・20/40A(内蔵)	有り	¥11,000

【配線図】



注意 この製品のコントロール部分(ブラックBOX)は、精密部品で構成されている為、常に高温にさらされる場所及び水のかかる場所などを出来るだけ避けた状態で取り付けを行って下さい。

1. 温度調整ダイヤル(約60℃～120℃)

側面にあります。

2. センサー

ラジエター(OILクーラーコア)のアッパータンクにアルミホイールテープ(P368 品番 GE98AL)などで貼り付け固定して下さい。尚、センサー自体はデリケートな部品の為、ていねいに扱って下さい。

3. バッテリー

バッテリー⊕及び常時電源は外径2mm以上の配線を使用して下さい。又、ヒューズはファンの消費電力(Amp)に応じて選択して下さい。P323 参照(別売)

4. ファンモーター

一般には電動ファンモーターの⊕側(外径2mm以上の配線を使用して下さい。)

5. イグニッション

キー ON の状態で電気が得られる所。

6. アース

ボディアース又はバッテリー⊖側。

7・8. ループ線

ループ線(出荷時はつないでいます)をつないでいけばキーOFFの状態でも設定温度に近づくまでファンが回りつづけます。

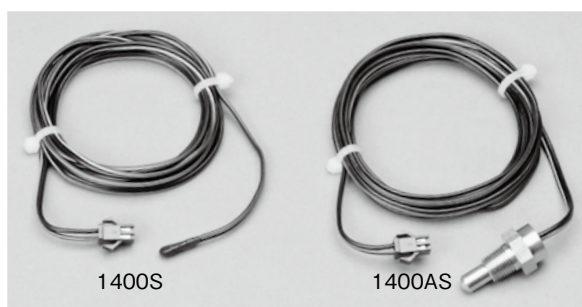
9. エアコン連動 (1403S・1405Sのみ使用)

エアコンコンプレッサー⊕側。
 エアコンを入れるとスイッチと連動してファンが回ります

■1403N、S・1405、S リペア&オプションパーツ

品番	仕様	コード長(m)	価格
1400S	センサーのみ	1.8	¥2,000
1400AS	センサー+PT1/8オス アダプター	1.8	¥2,500

※ 1400AS に関しましては、レーシングラジエターのサービスホールやNPT (PT)1/8 メス穴が有ればどこにでもセット出来るようにプラグタイプにしました。



クーリングシステム関連パーツ



●ラン・マックス セパレート電動ファンマルチコントロールキット

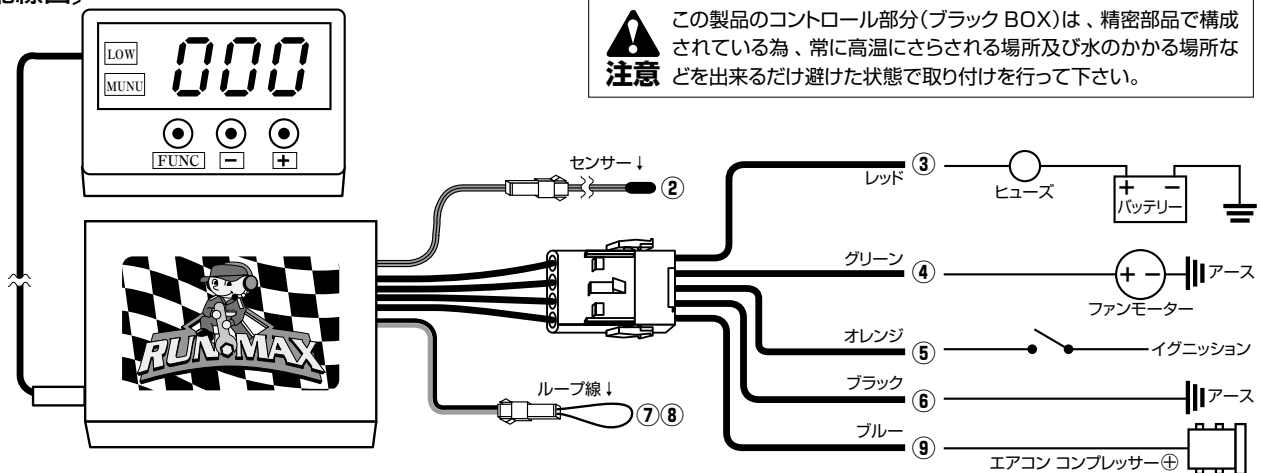


カラー：P23 参照

コントロールBOX及びセンサー部分は、今までに実績の有るP214の1403Nと同じシステムを採用しています。車内でモニターを見ながらボタン操作でコントロールが出来ます。もちろん、計測値の現在温度も表示出来ます。

品番	リレー容量	エアコンとの連動性	価格
1405	12V・20/40A(内蔵)	無し	¥15,800
1405S	12V・20/40A(内蔵)	有り	¥17,000

[配線図]



※②～⑨の説明は、P214 ラン・マックス 電動ファンコントロールキット配線図の2～9の項目をご覧ください。

●ファンの作動温度設定

FUNC ボタンを1回押すと「FO」が表示されます。

④ ボタンを1回押すと「F1」が表示されます。押しすぎた場合「F1」の表示が出るまで④ボタン・⑤ボタンを押して下さい。「F1」と表示されているとき FUNC ボタンを押すと動作温度設定モードになります。

その時表示されているのが設定温度です。変更する場合は④ボタン・⑤ボタンで温度設定を変更して下さい。

希望する温度に変更後 FUNC ボタンを押すことで設定は完了します。センサーの感知した温度が設定値以上になるとファンが動作します。

●ヒステリシス (ON ⇄ OFF 温度巾) の設定

FUNC ボタンを1回押すと「FO」が表示されます。

④ ボタンを2回押すと「F2」が表示されます。この状態で FUNC ボタンを押すとヒステリシス設定モードになります。

表示されているのが現在設定されているヒステリシス値です。変更する場合は、④ボタン・⑤ボタンで変更出来ます。初期として2.5℃に設定しています。

希望する数値に変更後 FUNC ボタンを押すと設定は完了です。

※極端に小さく設定するとリレーがON⇄OFFを繰り返し、リレーの寿命を縮める事になりますので、2℃以上の設定でご利用下さい。